

神楽名

くわのうち 桑野内神社神楽

伝承地

くわのうち
桑野内神社
ごかせ
五ヶ瀬町桑野内

指定等

町指定無形民俗文化財

伝承団体

桑野内神社神楽保存会
会長 佐藤 成志



住 吉

◆ 神楽の概要・由来・その他

桑野内神社神楽が伝承されている桑野内地区は、五ヶ瀬町の北部に位置し、高千穂町や熊本県と隣接している。町内には、桑野内神社神楽の他に、三ヶ所神社神楽、三ヶ所神社室野神楽、古戸野神社神楽、鞍岡祇園神楽が伝承されており、地区によって舞い方や演目の構成に多少の違いが見られるが、おおむね高千穂神楽と同じである。

神楽の始まりは定かではないが、明治の初めに高千穂町押方の坂本立三秀雲から神楽を習ったと伝えられている。また、現存する舞衣に「明治三年」の墨書きがあること、さらに、桑野内神社が明治3年に土生集落へ移転したことから、この時期に並行して神楽が舞われるようになったと考えられている。

高千穂町の二上神社と交流があり、神庭の彫り物や飾り方などに共通点が多くみられる。

神楽は春と秋の大祭で数番を奉納し、毎年1月には五穀豊穡と住民の安泰を祈念して夜神楽が斎行される。

◆ 芸能の機会・場所

- 春季大祭… 4月第2日曜日 桑野内神社
- 秋季大祭… 9月第2日曜日 桑野内神社
- 桑野内神社夜神楽… 1月第2土・日曜日。桑野内神社で神事のあと、

桑野内生活改善センターまたは下組生活改善センター（隔年）で奉納。

◆ 演目一覧

かみむ
神迎え

ひこまい
彦舞

ちんじゅ
鎮守 ※I

たち かんぜ
太刀神添

ごこく
五穀

だいじん
大神

ごしんたい
御神体

とり
戸取

ま こ
舞い込み

たいどの
太殿

すぎのぼ
杉登り ※I

すみよし
住吉

ひ まえ
日の前

ほんはな
本花

い せ かぐら
伊勢神楽

まいびらき
舞開

みこうや ほ
御光家誉め

かみおろ
神降し ※I

じがた
地固め

やまもり
山森

ふたり ぶ ち
二人武智

しちきじん
七貴神

たちからお
手力雄

しめ ぐち
注連口

神事

ひ かんぜ
幣神添

おんしば
御柴

ゆみしょうご
弓正護

きねまい
杵舞

しばひき
柴引

くもおろ
雲降し

よにん ぶ ち
四人武智

いわくぐ
岩潜り

じわり
地割

やつぱち
八ツ鉢

うずめ
鈿女

たからわた
宝渡し

※I「神降し」「鎮守」「杉登り」は式三番と呼ばれる。

※令和6年(2024)1月に奉納された演目に基づく

❖ 演目の特徴

桑野内神社神楽が所有する面は鬼神面が多く、舞いのテンポが速いのが特徴である。

「神降し」「鎮守」「杉登り」は式三番と呼ばれ、式典で必ず舞われる重要な演目とされる。

「御柴」では、柴を跨いだ荒神が神庭に舞い入り、荒神と神主が相対して問答をする演目で、神と人一体を象徴する。また、神楽伝承本にはない「四人武智」という舞いがあるが、いつ頃から舞われるようになったかは分かっていない。火伏神楽である「日の前」では、舞いの途中で4人の舞手のうち2人が交代で台所へ行き、竈の煤(へぐろ)を顔に塗り、神庭に戻りながら見物客の顔に煤を塗って回る。この時の煤は、現在も竈を使用している家からもらってきているという。

岩戸開きに関する演目(「伊勢神楽」「手力雄」「柴引」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番)は、桑野内神社神楽の中でも大切にされている演目で、最後に「注連口」「雲降し」で神送りを一連の夜神楽が終了となる。

❖ その他の特徴

- 面 … 鬼神、猿田彦、御神体(男・女)、鈿女 等
- 楽 … 太鼓、ガタ(太鼓の胴を叩く)、笛、鉦(手拍子)
- 装束 … 白衣、白袴、麻の舞衣、襟付きの白の舞衣、金襴の千早、襷、毛笠、烏帽子、フウガン(封冠)、鉢巻 等
- 採物 … 鈴、扇、櫛、刀、荒神杖、武智(房のついた棒。ブチ)、襷、御幣、大幣 等
- 文書 … 「御神楽控帳」、「芝荒神控」、「桑野内神楽の由来」(桑野内神社神楽保存会) 等

❖ 伝承の現状・課題

昭和40年頃、高齢化と保存会員減少により一時途絶えたが、昭和49年に氏子の若者を中心に立て直しを図り、その数年後に神楽が再開された。

令和7年(2025)3月現在、神楽保存会には21名が在籍している。「神楽の伝承をこの時代で終わらせるわけはいかない」という使命感のもと、特に子どもの後継者育成に力を入れている。神楽の時期になると県外に出ている舞手が帰ってくるという。

また、34番ある神楽のうち「袖花」「沖合」の2番は現在奉納されていないが、このうち「袖花」という演目については長老の師匠から掘り起こしを行うなど、積極的な継承活動が行われている。



地固め



七貴神



舞開